「多くの苦しみを通って下さった救い主」ヘブル５：１－１０　　１８・７・１５

Ⅰキリストを指し示す旧約聖書の大祭司。１－４節。

大祭司の条件、任務。

１．「大祭司はみな、人々の中から選ばれ」：１。

これは、大切なポイント。その任務は何よりも人間を代表するもの故に、人間であるべき。

だから、神であるキリストも人間となって下さった。

２．「人々のために神に仕えるように」：１＝人々の代表者。

「神に仕える」仕事としては→「ささげ物といけにえを罪のために献げるように、任命されています」：１。

レビ１６章。

キリストも、ご自分の命を私達の罪の為のいけにえとしてささげるために人となって下さった。

３．「大祭司は自分自身も弱さを身にまとっているので、無知で迷っている人々に優しく接することができます」：２。

民が何かに挑発され、感情を爆発させる時、大祭司は、自制心と共に、そのような民を受け入れる寛大さが必要。彼自身が感情のあらしに巻きこまれれば、民の為に代わって罪の為のいけにえを献げられなくなる。キリストも、人となり、多くの試みに会われ、無知で迷っている私達をも、思いやり、優しく接して下さる！

４．旧約の大祭司は、キリストと違い罪の性質を持っていたので、

「その弱さのゆえに、民のためだけではなく、自分のためにも、罪のゆえにささげ物を献げなければなりません」：３。

この点では、キリストご自身は違う。罪のない唯一のお方。それ故に、完全に私達を救えるお方。

５．「また、この栄誉は自分で得るのではなく、アロンがそうであったように、神に召されて受けるのです」：４。→出２８：１、レビ８：１、民１６：５から。

自称大祭司では、資格がなかった。神に召された、選ばれた者のみがなれた。キリストこそ本物の大祭司。

Ⅱ本物の大祭司であるキリスト。５-１０節。

１．「同様にキリストも、大祭司となる栄誉を自分で得たのではなく、『あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ』と語りかけた方が、それをお与えになったのです」：５。

「わたしが今日、あなたを生んだ（大祭司として立てた）」という意味は、

キリストが復活され、公に神の子として宣言され（ローマ１：５）、神の右の座に着座された時、キリストは永遠の大祭司職に任命された。

※聖書で「わたし（父なる神）が今日、あなた（御子イエス）を生んだ」というみことばが出て来る時、御子が存在しておられない時があり、ある日に、父なる神が御子を生み、御子が存在するようになったと解釈してはならない。

御父が御子を「生む」という聖書の意味は、「即位、立てた、任命した」という意味。

２．「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である」と言っておられるとおりです。：６。

詩篇１１０：４。

メルキゼデク＝アブラハムが所持品の１０分の１をささげた「神秘的な祭司」。

彼は、シャレム（平和の意。エルサレムのこと）の王だった。その名は「義の王」の意。義を確立する王であると同時に、いと高き神の祭司だった（創世記１４：１８－２０）。真の大祭司キリストを示す型、予型。

３.「キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました」：７。
このみことばは、主のゲッセマネでの祈りの苦闘を指すのだろう。罪をひとつも犯されなかった主が、
「私たちのために罪とされました」（Ⅱコリント５：２１）、
私達の罪の為に、神の「怒り、呪い、交わりの断絶」としての死を経験する事は、耐えがたい事だった。
この恐ろしい十字架の死を前にして、
「イエスは深く悩み、もだえ始め、彼らに言われた。『わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。』」
（マルコ１４：３３，３４）とさえ言われた。
「イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた」
（ルカ２２：４４）。
私達の祈りは、どれほど深く真剣なものだろうか。
主は、真実に、
「わが父よ、できることなら、この杯（神との断絶という十字架の死）をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください」
（マタイ２６：３９）とも祈られた。
「その敬虔のゆえに聞き入れられました」（ヘブル５：７）とは＝これは、父なる神が御子に、十字架を避けることを聞き入れられたのではなく、その最高に辛い十字架の死にも「立ち向かう力」を与えられた事を示す。主の格闘の祈りの末、主は変えられ、積極的に十字架に向かわれた姿から分かる
→マルコ１４：４１，４２。
４.「キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び」：８。
これは、キリストが最初は従順ではなかったという意味ではない。キリストは、最初から最後まで、御父に心から服従された。その従順の結果、起こる苦難によって、罪多きこの世で、神に服従すれば、苦しみが増す事を身をもって体験し学ばれた（原語：習得、体得する、体で覚え込むの意）。
神に従順の故に、この罪（神に逆らう）の世では苦難が与えられる。
「キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」（Ⅱテモテ３：１２）。
キリストは、御父が、私達に要求される律法をことごとく守られ、かつ、その律法に背く罪人、私達が受けるべき刑罰と想像を絶する苦しみと死をことごとく、負って下さった。主に感謝します！
※私達も苦しみにより神への従順を学ぶ。深い学び。
５．キリストは、地上での御父への全き服従により苦しみを味わい従順を学び、
「完全な者とされ（救いの創始者、完成者としての資格を得られ）、ご自分に従うすべての人（私達を含む）にとって永遠の救いの源となり、メルキゼデクの例に倣い、神によって大祭司と呼ばれました（原語：名づけ、指名、認められた）」：９，１０。
私達を完全に救う事の出来る大祭司（神と人の仲介者、とりなす方）なるキリスト。ハレルヤ！

Ⅲ神の先行する恵みへの私達の応答
１．この素晴らしいイエス様を信じる。救いの恵み、愛を素直に信じ心にいただく。すぐに離れたりせず、生涯、主に拠り頼みたい！
２．素晴らしい神を心から賛美し、感謝し続けたい。いつも共におられる主の愛を受け、互いに愛し合いたい。
３．私達も、主の足跡を歩みつつ、主が受けられた苦しみを自分も受ける。
私達も、今、与えられている苦しみを、
①主の支配にあるものとして認め受け入れる。
②その苦しみが決して無駄ではなく、神への従順を学ばせるものとして認め受け入れる者として下さい！